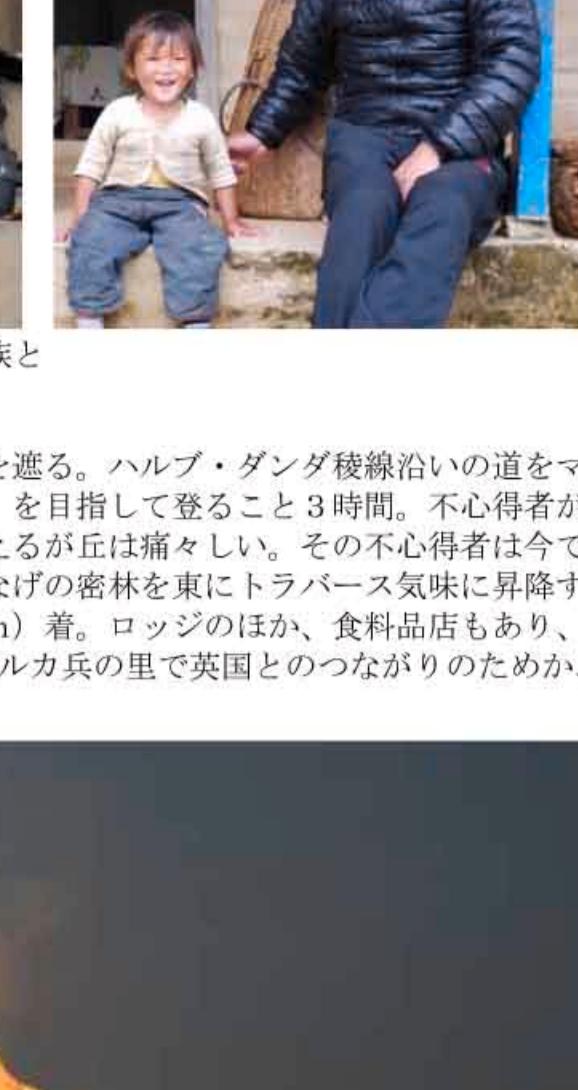


(3) シクレス・エコトレック、ホグ・ゴト（5日間）

10月31日

晴。ポカラ朝発。セティ・ナディ右岸ブルジュンコーラのチェックポストまでタクシーで約1時間。なだらかな尾根道をたどってガレカルカ（1700m）で民宿泊。棚田では刈り取りがおわって、脱穀にいそがしい。



ガレカルカの民宿の家族と

11月1日、

天気は下り坂で、陽が登るとまもなく雲が湧き視界を遮る。ハルブ・ダンダ稜線沿いの道をマチャブチュリの展望台タラ・ヒルトップ（2800m）を目指して登ること3時間。不心得者が視界を得るために周囲の喬木を切り詰めたので山は見えるが丘は痛々しい。その不心得者は今でも刑務所暮らしのこと。ミス・ダンダ南面のしゃくなげの密林を東にトラバース気味に昇降すること3時間でグルン族の大集落シクレス（2000m）着。ロッジのほか、食料品店もあり、斜面に建った生活感あふれる集落内の散策が楽しい。グルカ兵の里で英国とのつながりのためか、開放的な雰囲気がある。



しゃくなげの密林、ミス・ダンダ南斜面（2500m）付近

11月2日、



（右）アンナブルナII峰（7937m）南面、ライジ・ダンダ（2350m）から。

晴後小雨、早朝、牛の放牧地をとおって約2時間でアンナブルナII、IV、ラムジュンジマールを、2泊3日で近くから見る事のできるエコ・トレックのコースは、最高所で2800mなので高山病の心配も殆ど無く、日程の限られた旅行者には向いています。タクシーと乗り合い四輪駆動車でポカラから450軒の大集落シクレスまでは当日到達できるので体力・時間が不足気味な人でも行けます。

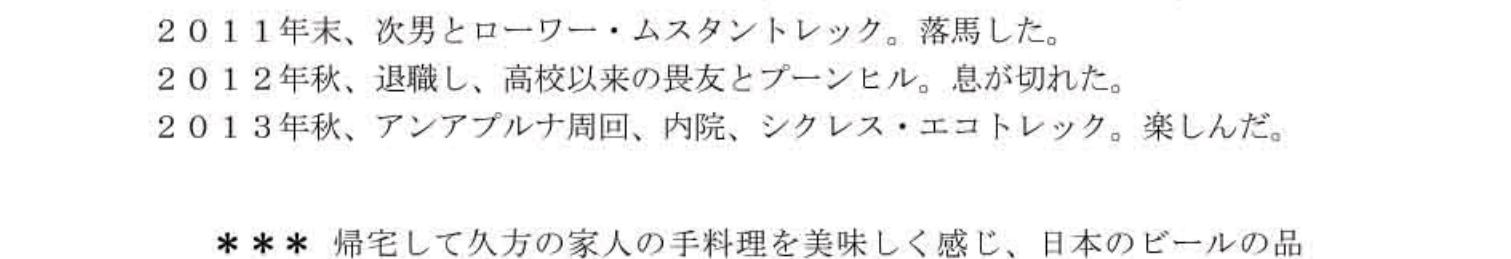
他の商業化の進んだ人気トレッキングコースとは一味違い、グルン族の日常生活に触れることができ、特にタラ・ヒルトップからシクレスまでのルートにはしゃくなげの密林が続き4月に訪れたが、南側は開放である。小屋にはティハール祭で帰省した既婚の二人の姉妹が兄弟と父親の籠る小屋まで祝いに登って来ており、祭りの家族団欒の宵だった。



ホグ・ゴト（2100m）にて。

11月3日

晴のち曇。正面は近づくほど展望がきかなくなる深いゴルジュ地形になるため、左岸の尾根にあるナウラ・カルカ（2400m）まで登ってIV峰南面と氷河を眺めてから、往路をシクレスまで引き返す。



アンナブルナIV峰（7525m）庵面、ナウラカルカ（2400m）から。

11月4日

シクレスから棚田の尾根を下って、マディ・ナディ下流、中国による大型水路式発電所の建設工事が進むサビからティハール祭りの帰省帰りで膨れ上がったローカルバスでポカラ帰着。

米倉幸夫（s41入部）アンナブルナBCにて、

E-mail:yonekura_yukio@yahoo.co.jp

ネパールとの縁
1967年秋、故小川勝さんとシャブルからガネッシュヒマール偵察。西進してマチャコーラからブディガンダキを下り、ゴルカを経由してカラまで歩く。
1978年春、佐藤正敏君ご両親他との慰霊の旅でカトマンズ、ポカラ訪問。
2009年秋、60周年事業第4隊の日程の一部に参加。トレッキングしたくなつた。
2010年秋、長男とランタン谷トレック。初日に足が痛くて苦しんだ。
2011年末、次男とローワー・ムスタントレック。落馬した。
2012年秋、退職し、高校以来の異友とプーンヒル。息が切れた。
2013年秋、アンナブルナ周回、内院、シクレス・エコトレック。楽しんだ。

*** 帰宅して久方の家人の手料理を美味しく感じ、日本のビールの品質に感激し、温泉旅館で飲み放題付きのバイキクングを食べまくった結果、ほぼ出発前の体重を取り戻し再びメタボ境界の崖縁です。***